

社団法人

俳句協会報

1975年

2月

No. 60

俳句文学館

— 起工式まで —

俳句文学館の起工式についての状況報告を依頼されたのであるが、起工式もって行くまでの労苦を一通り書くことによって、起工式を挙げ得た当事者のよるごの気持を味わってもらいたいのである。

俳句文学館建設予定地についての、当協会の意志は昭和四十九年十一月二日の理事会決議にもとづき、新宿区百人町所在の国有地私下申請書を提出することによって行なわれた。この申請を受理した関東財務局においては、国有財産私下審議会の審議を経ねばならない。その審議会は十一月二十八日に行なわれることとなった。その間、関東財務局としては審議会を通すために、当協会の性格、設立の趣意、過去における事業活動の状

況、運営組織、決算内容の検討、文学館建設の必要性の検討、建設後における運営方針、五年間にわたる見込収支計算書の作成、収納図書及び資料の収集状況、寄贈申込み予定者の寄附見込み冊数等々詳細にわたって予想質疑に対する回答を用意せねばならない。そのための資料提出依頼及び問い合わせが連日連夜行なわれた。幸い諸準備が万全であったため二十八日の審議会も無事に通りほつとした所で、次の仕事が続いていた。これは私下協約書締結のための事務手続が開始されたのであった。工事施行計画書の作成、実地設計図の作成、私下代金の支払計画書、銀行による延払代金の支払保証の取り付け、私下評価鑑定官による価額の決定、再審申立による再三にわたる査定、

当協会が延払利息については特例の適用を受けられるかどうかの判定などを経て、十二月十九日に到り、売買契約書の取り交しが十二月二十五日と決定されたので、起工式を年内ぎりぎりの十二月二十六日に挙行しようとする陣をしいたのであった。

折角苦労に苦労を重ねて持ち込んだ起工式である。幸いその日は晴天であった。晴天の下で晴れがましく挙行したいとするねがいは長い間これにかかわってきた当事者とし切実であった。売買契約締結前の二十四日、請負施行者の手違いで整地を行なったことが、隣接地に所在する関東財務局新宿支所員に見られ、大目玉をくい、陳謝にこれ努めたというハッピーングもあった。病後の身でありながら、皆様の苦労にむくいるにぜひ起工式には出席するという水原秋桜子会長の堅い決意は、われわれ当事者にとってこれほどうれしい贈物はなかつたのであった。

(松崎鉄之介)



富安風生翁

芸術院入りを祝す

角川源義

「俳句」十二月号の特集「現代俳句の百人」はさまざまな話題を呼んだ。多くの秀句もあつたが、興味の一つは生年月日順に掲載されてゐることで、いろいろと考へさせられた。私たちの世代（五十才台）の多くはすでに「軽み」を志向してゐるのだが、私を例にとると五十七番目である。俳壇の層の厚さであらう。俳人協会賞銓衡の席でそのことに触れると、平畑静塔さんが自分の前が少なくて心細いと笑はれた。成程何事も見方によっては違ってくる。

わが風生翁は百人中いちばん先頭にあつたのはもちろんで、かうなれば長寿の記録を更新したいと宣言された由。これまで風生翁は長寿であることに、ひそかな恐れを抱かれてゐた。その意識を自ら超克しようとしたやうである。百人特集の巻頭におかれた二句の風生俳句は

邯鄲の筥を身近かに風生座
虫の夜のみづからゆるす泣男

であり、私は瞠目した。

草魚洞主人は身辺近くの草虫と生活ともにしてゐる。堆書の山の谷底に邯鄲の住居がある。住居と云つても掌上に乗るほどの小筥。座五の「風生座」が草魚洞主人の生活を思はせ一座の文芸の座頭を連想させる。「邯鄲の筥」もおもしろい表現で、浦島太郎の玉手箱のやうであり、一炊の夢をやどした箱のやうである。作者はわざと「筥」の文字を用ゐ、小筥の感じを出し、邯鄲の鳴音に聞き痴れ生涯を一炊の夢として小筥に秘めてゐる。

俄かの寒さで邯鄲は鳴き音を止め、銀光りの死装束で四肢をたたみ、筥の底にうつ臥せになつた姿が美しく、また哀れでもあり「泣男」のやうに翁は泣く。

昨年の暮出版された句集『年の花』を拝見し、世阿弥が『風姿花伝』に云ふ「老骨に残りし花の証拠」を見る思ひがした。その風生翁が毎年芸術院会員の候補にあげられ見送られて無念の感を深くするばかりであった。山本健吉さんから風生翁が遂に芸術院入りされたら電話があ

つたとき、邯鄲の一炊の夢ではないかと思つた。会議を中断してお祝ひに駆けつけたが、翁は他出中で夫人にお目にかかつた。院入りの報が丹羽文雄氏から入つたとき、風生翁はまだ臥床中だつたが、容易に信ぜられなかつたと夫人の話だつた。万年候補のままで終ると思はれてゐたのであらう。記録的な最高年齢で芸術院入りをとげられたのは、俳壇人として無上の喜びである。あたかも俳句文学館建設の納入式を直前にしてゐたのは、後世の俳句史の上で単なる偶合として書かれるのであらうか。

